



■第17号発行
2015・2・1
■発行責任者
赤川イシ子

三十年を顧みて

会長 横村 英雄

柏崎民謡保存会が発足したのが、終戦間もない昭和二十八年の事でした。そして幾多の出演活動が続けながら歳を重ね、今年で六十三年を迎えました。

この長い年月の中での活動は、数えきれないものがありました。

地元民謡のレコードの吹き込み（コロンビア）や、ラジオ・テレビの出演、古くは（昭和四十五年）大阪万博にも出演しました。

又、市内県外の出演はもとより、香港やソビエト・ハバロフスクなど、海外公演も精力的に出掛けた保存会でした。

前会長 故・大島常吉様の後、小生が第七代目の会長としてお受けしたのが昭和六十年の事でした。まだ四十六歳という若さで踊りや太鼓、そして司会役と何でもやれた歳でした。

又、行く先々の出演で、踊りの曲



年頭のご挨拶

理事長 赤川イシ子

一年の計は元旦にあり、いつの時代から言われて来た言葉なのでしょう。今年こそと思つて新年を迎えるのですが、何もできずに終わってしまう、そのくり返しでした。

欲しくない年が、又、一つ増えてしまいました。忘れることにしました。

仕事を傍らとはいえ、大いに燃えた年月でした。

目標を持つ。小さな目標を。今年の目標「守る」。家族を、健康を、職場を、絆を、仲間を。大きすぎるかも知れませんが、この他に私の使命は保存会を守ることかな。でも、一人では守れません。会員の皆様の力と、情熱なくして守ることは出来ません。地域の文化を、伝統ある宝を、と、立派な言葉を並べても会への熱い思いを無くして、目標には届かないのです。私達の活動にゴールはないと思うのです。ゴールがないから、走り続けるのです。共に力を合わせて精進という、見えないゴールを各々が見つめて邁進しましょう。

今は、地方も立方も盤石な体制が整い、私の退任後は後任に赤川イシ子さんを会長に迎え、更に保存会が発展して行く事を確信しております。いつも勇姿を誇っている霊峰米山のように、柏崎民謡保存会は越後柏崎に何時迄も地元民謡の花として咲き誇って、郷土の民謡を後世に継承して行って頂きたいと願つて居ります。

私、今後も退会をせず一会員として、融和の中に置いて頂きます。

保存会の皆さま、又、保存会を取り巻く市や会議所、メディアなど関係機関の多勢の皆様方、三十年間のご指導、ご協力に心より感謝申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。



置かれた場所で 咲きなさい

(シスター渡辺和子さんのことばより)

年次大会を終えて

矢代 絹代

十月二十六日(日)アルフォーレにおいて、県民協第四十八回民謡民舞大会が行なわれた。踊りコンクールには六団体がエントリー。過去の出場団体三十のコンクール時代(?)を知っているだけに、六団体とは寂しい限りである。当保存会は、地元の民謡だけで出場し、今回は「柏崎おけさ」で参加した。例年、秋は出演も多く、年次大会の練習日を設けることは難しい。基本練習もできないまま演出から始まった。間際まで「あーでもない」「こうでもない」と演出が変わることは、保存会では珍しいことではない。その要求に立方は答えてくれるが、実際に客席から観た時、どのような動きになっているかビデオを見るまではほとんどわからない。演技終了後、立方全員に自分なりの踊りができたことと、終わったという安堵の表情が見られたように思えた。後日、ビデオを見て、それを再確認し、納得したのは私だけだろうか。

只、何より今回は、かつてなくメンバー交代を余儀なくされ、更に大会一週間前にもかかわらず、再度メンバー交代を強いられた。今回の地元開催にあたり、赤川理事長をはじめ、出場メンバー以外の立方も練習に来てくれた。動きを見てくれたり、休んだ人の代役になったり。又、当日、受け付けをしてくれたりと。立方全員で、自分のできることで、年次大会にかかわれたことは良かった。



め、出場メンバー以外の立方も練習に来てくれた。動きを見てくれたり、休んだ人の代役になったり。又、当日、受け付けをしてくれたりと。立方全員で、自分のできることで、年次大会にかかわれたことは良かった。

〔柏崎おけさ〕は、地元の民謡でありながら、民謡流しの踊りが定着し、本踊りを知らない人が多いことは、とても残念に思う。

夏の風物詩として定着を

設備係 服部 眞一

明けましておめでとうございます。この原稿を書いている今は、まだ十二月初旬です。ご承知とは思いますが、既に日本列島は強烈な寒波に見舞われ、西日本各地や四国でも被害が出ました。

さて、昨年を振り返り、夏の「柏崎大盆踊り」ですが、二回目も一回

目と同様、八月二十四日でした。今回も柏崎駅を始め、駅前ロータリーを貸してくださったタクシー協会の皆様、そして観光協会の御協力やその後援会の方々等、沢山の後押しをいただきました。そして高齢化が進む会員にとって、一番難儀な舞台作りも、日本海太鼓の皆様から力を貸していただきながら、立派に提灯の飾り付けや紅白の幕も取り付けできました。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

一回目と異なるところは、開催曜日を土曜から日曜にして、各タクシー会社に、できる限りご迷惑をお掛けしないよう改善しました。先回、借り物だった紅白の提灯を、自前で八十数個、下げることができました。

これには一つ一つ保存会員の名前、そして賛同くださった方々のお名前を書き込みました。又、青年会議所が予てより企画していました新民謡「ドンガラピッカラ」の初披露がされ、プロの歌と踊りには保存会員も加わり、観客の皆様も含め楽しいひと時でした。先回の時は、市内各紙にはおよそ三百人の踊り手うんぬんの記事が、今回は五百人と書かれました。踊りの輪も確かに三重四重と出来て、すごく賑やかでした。いずれにしても「柏崎大盆踊り」が、昔ながらの夏の風物詩の一つに定着することを祈念して、私たち会員は毎年頑張ります。今年も応援し

てくださる皆様にとって良い年になりますように。

柏崎民謡保存会の皆様

うつくしがはら温泉敬老園

百瀬(相談員)

向寒の候、柏崎民謡保存会様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。また、先日は遠く長野県松本市までお越し頂き、民謡を披露していただき、厚く御礼申し上げます。

片桐さんをはじめ、入居者様も大変喜ばれ、数日経ってからも「あの民謡は楽しかった」「また来てくれるといいな」「今年のイベントの中で一番よかった」などなどお言葉を頂いております。その様なお話をしてくださる時の入居者様のお顔は、とてもキラキラしており皆様がお歌って踊ってくださっている様子を鮮明に想いおこしながら話しているのがわかります。

また、機会がありましたら、ぜひ披露していただきたいと思っております。

これからの季節、寒さも増してきますが、皆様、くれぐれも御身体にはお気をつけてお過ごしくださいませ。

片桐さんを訪ねて!!

片桐さん、逢いに来ましたよ

赤川イシ子

夏、この季節が来ると、どうしているかね、片桐さん〴〵の声が、誰からともなく聞かれて数年。逢いたいねから逢いに行きたいネ、そして逢いに行こうよ、ということになり、二十名が一台のバスで松本の地へ。うつくしがはら温泉敬老園で暮らして居られる片桐さんとの絆を大切に訪ねた二〇一四、一一、九。どんな姿を想像していたのか、各々の思いは……。

お元氣な片桐さんに逢えて、本当に良かった。全く衰えていない声での柏崎甚句が聞けて嬉しかった。びつくり。さすがでした。勿体ないと思っただ柏崎で、



ぎおんまつりで唄ってもらえるのに、色々な方々の協力を得て実現した、片桐さんを松本の地に訪ねた旅でした。片桐さんからパワーをもらって来ました。いつまでも、お元氣で居て下さい。

坂井 文繪

私への好意に感謝しつつ恩返ししてゆくの、これからの私の古い支度。片桐さんにも会えて少しはお返し出来たかな？

村山百合子

片桐さんとの出会いは、リケン民謡会と一緒に、会社関係民謡部の年一回の全国大会に、有楽町の読売ホールに、十一年連続で通った事を今でも思い出しています。

小川 静乃

総勢二十一名で、小さな宿が貸切状態。楽しく一夜を過ごし、片桐さんに会いに。張りのある素晴らしい声に感激し、一同、涙、涙。本当に、良かった。

片桐さんを訪ねて

服部 眞一

服部 いや…… 片桐さん、お久しぶり

片桐さん お・おめ！ わーかなったねっか

服部 まだ頭も黒々だね
片桐さん ばか ペンキ塗っているんだいや

すごく元氣な片桐夫妻

間島 正明

想像以上に、元氣な元氣な片桐夫妻に会う事ができ、訪問した事が本当に良かったと思えました。行く道とは云え、元氣で、ガンパローと自問自答するものです。

上村千代子

片桐勝夫さんに会いに松本へ。何年ぶりでしょう？ お元氣そうで何より。昔とかわらぬ声の柏崎甚句も聞く事ができ、感無量でした。

高杉ミユキ

色々想像しながらの久しぶりの再会です。いざ会おうと私達を覚えていて、又、あのなつかしい高い声を聞いて、ほっとした気持ちでした。楽しく踊ったり、歌ったりの約一時間、

間、束の間の出来事！

あー、松本に来て良かったと、充実した気持ちで帰って来ました。

喜びと感動

江部登美子

片桐さんの顔を見て、思ったより元氣で、また声も、そして歌の歌詞も以前と変わらず、びつくりしました。私の目にも熱い物を感じました。今度、又いつか逢いたいと思います。いつまでもお元氣でいてほしいです。

鬼山美智子

八十九歳になった片桐さんは、どうしているのかなと思ひ、行きました。元氣に唄ったり踊ったりする姿を見て昔が懐かしく、涙が出てきました。

海津 清子

片桐様とは初対面でしたが、「伝説の唄い手」とお聞きしていた通り、ご高齢とは思えないお声で感激致しました。

桑原まり子

とても楽しい旅行をさせてもらいました。片桐さんの唄声と踊る姿がしつかりしていて、ビックリしました。

■内山正三郎

片桐さんは、私の笛の師匠でした。元氣な姿にお目にかかれて、衰えぬ声量にビックリ。体に気を付けて、いつまでも、お元氣でいてください。

■服部 恵子

片桐さんに会えてよかったです。顔は見たことあるけど、名前はでてこないのうと言われました。甚句を片桐さんの歌で踊れてよかったです。

■福島 一利

保存会の旅行で片桐さんに会いに行きました。会った時、思った以上に元氣だったのでおどろきでした。いつまでも元氣でいて下さい。

柏崎民謡保存会

松本慰問一座に参加して

■飯塚 和代

マナビーの出演後にもかかわらず、皆様のパワーにはおそれいりませんでした。

私も施設ボランティアは何回か経験していますが、片桐さんに会い、柏崎の甚句、おけさがかかると以前の声がよくえり、長野においても花開いて、柏崎民謡保存会はずばらしい会だと感動しました。私はまだ

駆出しではありません。ついて行くのがやっとですが、精進したいと思えます。

■曇 昌美

「あの高い声の男の人？」

顔は知らないが、甚句の唄声は我が娘の記憶に残っていた。

そんな唄い手になれたらと思う出会いでした。

片桐節いつまでも!!

■堀 憲市

柏崎民謡保存会の地方(唄)として、発足当時(昭和二十八年)から永年に渡り、会の発展のためにご尽力いただいた片桐勝夫さんが、松本市にある敬老園に奥さんと一緒に入居しており、その片桐さんを訪ね、励まそうと保存会の有志で慰問を行い、柏崎の民謡そして新潟県内の民謡を、敬老園の入居者約五十名の皆さんに披露いたしました。片桐さんも、柏崎甚句で飛び入り参加していただき、昔の声のままの音量でした。片桐さんがこれからも益々元氣で過ごせるよう、祈念しております。



平成26年度経過報告

地域文化活動への積極的参加と、会員相互の技の向上を目指して、研鑽して参りました。

- 一、第七回感謝の集い 五月二十四日・産文ホール
- 二、ぎおんまつり前夜祭 民謡街頭流し、子供お囃子隊は定着しました。
- 三、市民大盆踊り 第二回を昨年同様、駅前で多勢の方々と共に。
- 四、新潟県民謡協会年次大会踊りコンクールに参加 於・アルフォーレで。
- 五、マナビーステージ 市民プラザで十一月八日
- 六、片桐勝夫さんを訪ねて 十一月八日、マナビーステージを終えて駆け足で出発。十一月九日に訪ねました。
- 七、地域敬老会 コミュニティ行事への参加多数。
- 八、柏崎文化協会行事 三月一日・アルフォーレ出演。
- 九、横村会長退任、感謝の意を込めて 三月二十八日・メトロポリタで。

平成27年度行事計画

継続は力なり。切磋琢磨、そして、いつものこと乍ら「和」を大切に、今年も一年頑張ります。

- 一、第八回感謝の集い 六月七日(日)・産文文化ホールで。
- 二、第三回市民大盆踊り 八月二十三日(日)・駅前広場
- 三、薩摩川内市へ ハイヤサミット参加 十月三十一日～十一月一日

他に、ぎおんまつり・民謡流しへの参画は、保存会としての取り組みの中心になっておりますが、やゝもすればマンネリ化して来ている昨今、何か新風をと、何か活性剤をと、そして一人でも多くの地域の方々が参加して下さるような魅力を探しています。

編集後記

企画ということの難しさを痛感しています。この会報が多くの皆様に読んでいただけるものになるようにと思いつ、乏しい内容になってくるのかなと反省もしています。いつも快く原稿依頼を受けて下さる方々に感謝します。

